

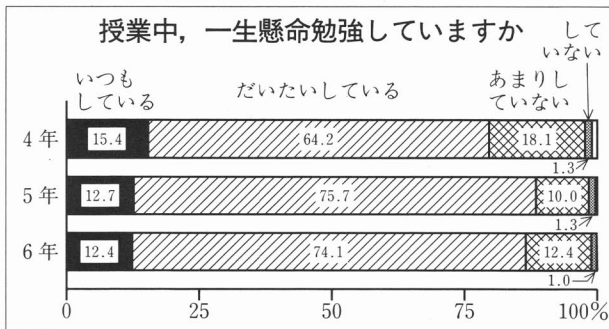
い」としている児童は、10%程度と他教科と比較して少ない。

近年、「理科ばなれ」が指摘される中、本調査からは「嫌い」とする児童は比較的少なく、逆に「好き」を選択している児童は50%前後である。

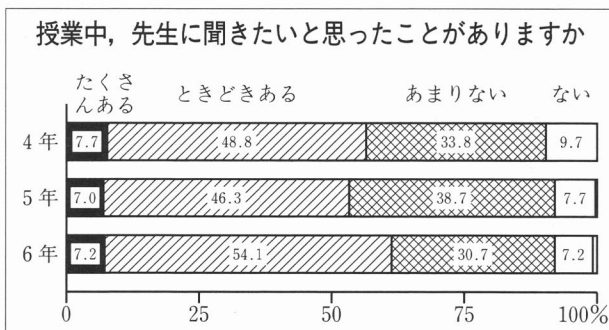
(2) 授業中の態度

① 調査結果

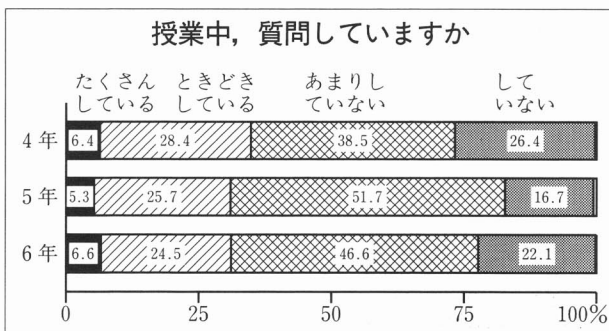
グラフ3



グラフ4



グラフ5



② 考察

「授業中、一生懸命勉強していますか」(グラフ3)の問いについては、「いつもしている」は、各学年10%台で少ないが、「だいたいしている」と合わせると80%以上となり、小学校児童の意識としては概ね努力している姿がうかがえる。昨年度実施の「中学

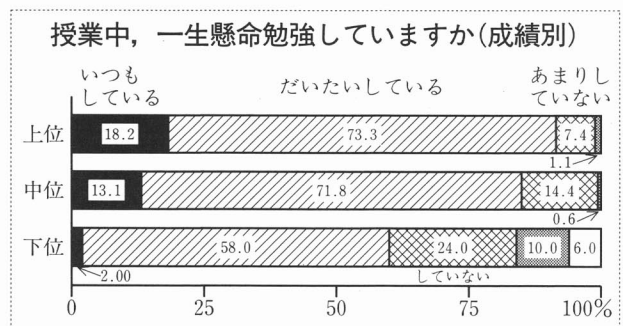
生に対する調査」では、60%程度であった。

次に「授業中、先生に聞きたいと思ったか」(グラフ4)の問いの結果では、各学年で「たくさんある」は7%程度と低い。「ときどきある」と合わせても57%程度である。また、実際に質問している児童については、グラフ5で見ると、さらに低くなり各学年30%程度である。

○ 成績別に見た特徴ある項目

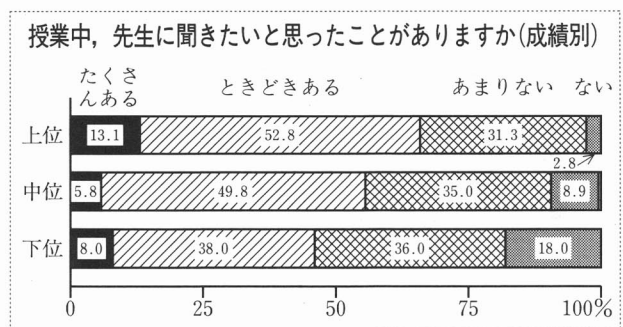
授業中の態度3項目について、それぞれ成績別に見たものである。

グラフ6



授業中一生懸命勉強を「いつもしている」は上位児では18.2%で、下位児になるにしたがってその割合は低くなっている。「だいたいしている」と合わせると、上位児が91.5%、中位児が84.1%、下位児が60.0%となる。下位児においても60%の児童が前向きに授業に取り組んでいると自分を評価している。

グラフ7



授業中、先生に聞きたいと思った児童は、「たくさんある」と「ときどきある」を合わせた場合、上位児で65.9%、中位児で55.6%、下位児で46.0%である。下位児になるにつれ下がっている。しかし、実際に質問している児童の割合は、グラフ8のように「たくさんしている」「ときどきしている」を合わせ